
セント・ルカ セミナー



第1回セント・ルカ セミナー

日 時：1994年6月26日

場 所：セミナー セント・ルカ ホール

懇親会 神和苑（別府市、鉄輪温泉）

講 師：Dr.P.S.Brinsden (Director : Bourn Hall Clinic, Cambridge, UK)

演題／1. The history of IVF-ET at Bourn Hall Clinic.

2. The clinical aspects of embryo cryopreservation.

3. Ovarian stimulation for assisted conception treatment.

座 長：宮川勇生先生（大分医科大学医学部 産科婦人科学教授）

参加者：31名



セミナー会場



Dr.Brinsdenと、宮川勇生教授

第2回セント・ルカ セミナー

日 時：1995年6月10～11日

場 所：懇 親 会（10日）「ほり川」（大分市都町）

セミナー（11日）セント・ルカ ホール

講 師：高橋克彦先生（広島HARTクリニック）

演題 「妊娠困難例に対するARTの工夫」

加藤 修先生（加藤レディースクリニック）

演題 「不妊外来における new ARTの現状」

参加者：35名



高橋克彦先生



加藤 修先生

第3回セント・ルカ セミナー

日 時：1996年8月24～25日

場 所：懇 親 会（24日） ホテル白菊（別府市）

セミナー（25日） セント・ルカ ホール

講 師：斎藤英和先生（山形大学産婦人科助教授）

演題 「ARTにおける問題点」

Dr.K.Y.Cha (CHA General Hospital, Seoul, KOREA)

演題 「CHA総合病院におけるARTについて」

座 長：宮川勇生先生（大分医科大学教授）

参加者：40名



橋原講師

斎藤先生

Dr.Cha

宇津宮

宮川教授



Dr.K.Y.Cha



斎藤英和先生

第4回セント・ルカ セミナー

日 時：1997年8月23～24日

場 所：懇親会（23日）別府パストラル（別府市）

セミナー（24日）セント・ルカ ホール

講 師：鈴木秋悦先生（WHOヒト生殖プログラム科学技術アドバイザー）

演題 「生殖工学から生殖医療への展開」

品川信良先生（弘前大学名誉教授、セミナー「医療と社会」代表）

演題 「生殖医療における生命倫理と世界の情勢」

参加者：45名



鈴木先生ご夫妻

宮川教授

品川教授



鈴木先生



第5回セント・ルカ セミナー

日 時：1998年10月24～25日

場 所：懇 親 会（24日） 西鉄グランドホテル

セミナー（25日） セント・ルカ生殖医療研究所3F多目的ホール
シンポジウム

石井直恵先生（日本ミリポアKK研究開発部）

演題 「細胞培養液と超純水」

荒木重雄先生（自治医科大学助教授）

演題 「ARTと培養の基礎」

向田哲規先生（広島HARTクリニック）

演題 「Blastocyst ETの有用性」

福田愛作先生（IVF大阪クリニック所長）

演題 「米国における培養環境」

特別講演

講 師：Thomas B.Pool,Ph.D. (Fertility Center of San Antonio)

演題 「ARTのQC」

座 長：宮川勇生先生（大分医科大学医学部 産科婦人科学教授）

参加施設：33施設

参 加 者：62名



懇親会



宮川教授



Dr.T.B.Pool

第6回セント・ルカ セミナー

日 時：1999年8月21～22日

場 所：懇親会（21日） 大分東洋ホテル

セミナー（22日） セント・ルカ生殖医療研究所3F多目的ホール

シンポジウム

宇津宮隆史（セント・ルカ産婦人科）

演題 「当院の成績紹介」

荒木重雄先生（自治医科大学助教授）

演題 「理想的な不妊症診療を目指して」

高橋克彦先生（広島HARTクリニック）

演題 「ARTの適応と方法の選択」

向田哲規先生（広島HARTクリニック）

演題 「簡易胚凍結法 Vitrification法について」

特別講演

講 師：D.K.Gardner,Ph.D.

Colorado Center for Reproductive Medicine

演題 「ARTラボの紹介、胚盤胞移植の適応と成績」

座 長：宮川勇生先生（大分医科大学医学部 産科婦人科学教授）



Dr.Gardner 向田先生

高橋先生

サテライトexhibition

日 時：8月21～22日

場 所：セント・ルカ産婦人科 情報処理室

生殖医療支援ソフト "SarahBase" の実演

参加施設：38施設

参 加 者：63名



田中温先生 Dr.Gardner



Dr.D.K.Gardner



談話室にて

第7回セント・ルカ セミナー

日 時：2000年8月19～20日

場 所：懇 親 会（19日） 大分東洋ホテル

セミナー（20日） セント・ルカ生殖医療研究所3F多目的ホール

シンポジウム

宇津宮隆史（セント・ルカ産婦人科）

演題 「当院の成績紹介」

吉田 淳先生（木場公園クリニック）

演題 「生殖とジェネティックス」

見尾保幸先生（ミオ・ファティリティ・クリニック）

演題 「非閉塞性無精子症の治療の現状」

荒木康久先生（高度生殖医療技術研究所）

演題 「TESE-ICSIの留意点」

小松 潔先生（原三信会病院）

演題 「閉塞性無精子症の治療」

特別講演

講 師：星 和彦先生（山梨医科大学産婦人科学講座 教授）

演題 「生殖医学の現状と問題点」

座 長：宮川勇生先生（大分医科大学医学部 産科婦人科学教授）

サテライトexhibition

日 時：8月19～20日

場 所：セント・ルカ産婦人科 情報処理室

生殖医療支援ソフト “SarahBase” の実演

参加施設：30施設

参 加 者：48名



懇親会



吉田 淳先生



見尾保幸先生



荒木康久先生



Dr.Paul 見尾先生 荒木先生 宮川教授



小松 潔先生

第8回セント・ルカ セミナー

日 時：2001年8月18～19日

場 所：懇親会（18日） ホテル白菊（別府市）

セミナー（19日） セント・ルカ生殖医療研究所3F多目的ホール

シンポジウム

研究室 平井香里（セント・ルカ産婦人科）

演題 「当院におけるHFF99の経験」

中澤照喜先生（扶桑薬品工業㈱研究開発センター）

演題 「体外受精・胚移植法に使用されてきた培養液の変遷と

HFF99の培養液の開発経緯」

阿部宏之先生（㈱機能性ペプチド研究所主任研究員）

演題 「受精卵の品質に影響する培養環境と卵管因子」

柳田 薫先生（福島県立医科大学医学部 産科婦人科学教室助教授）

演題 「ARTと受精障害」

座長：荒木康久先生（高度生殖医療技術研究所所長）

特別講演

講師：久保春海先生（東邦大学医学部第1産科婦人科学教授）

演題 「着床率向上のための受精卵スクリーニング」

座長：宮川勇生先生（大分医科大学医学部 産科婦人科学教授）

サテライトexhibition

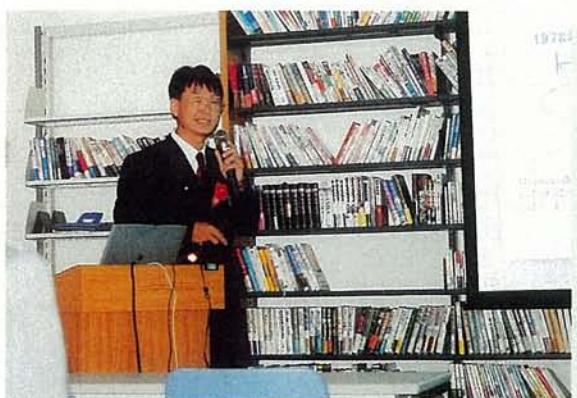
日 時：8月19日

場 所：セント・ルカ産婦人科 情報処理室

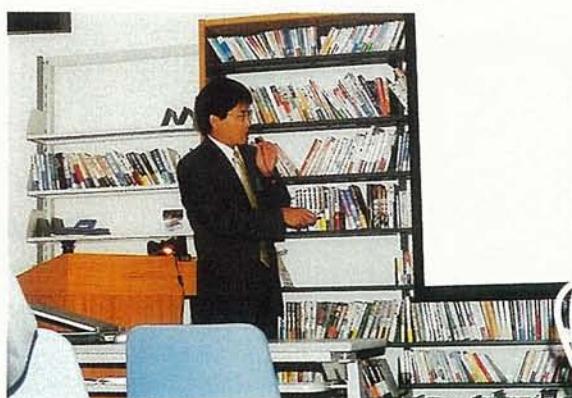
生殖医療支援ソフト“SarahBase”の実演

参加施設：28施設

参 加 者：46名



中澤照喜先生



阿部宏之先生



柳田 薫先生



久保春海先生



セミナー会場



角沖先生 蔵本先生



荒木先生

谷口先生 久保先生

懇親会

セント・ルカ ミニセミナー

日 時：2001年11月3日

場 所：セント・ルカ生殖医療研究所3F多目的ホール

シンポジウム

講 師：Dr.Brooks A.Keel,Ph.D.

Associate Dean for Research Professor of OB/GYN

Women's Research Institute

Department of Obstetrics and Gynecology

University of Kansas School of Medicine-Wichita

演題 「Are Sperm Counts Declining?」

講 師：Dr.Tammie Schalow,Ph.D.,HCLD

Paradox Consultants

演題 「Construction of the New IVF Laboratory and

Quality Control」

座 長：宮川勇生先生（大分医科大学医学部 産科婦人科学教授）





Dr.B. A.keel



ミニセミナー会場



生殖医療研究所 クリーンルーム見学



ミニセミナー懇親会

Mr. Keel And Ms. Schatz
Welcome to St.Luke Clinic



ミニセミナー懇親会



キールご夫妻

新聞記事より (1999年)

「「おひやなあがたのー」」 感じよとなつたのねえ。」
「「ここのねえ。こいつのやつ」」 十九歳の若臣。『天賜
人じ。』 頭脳も筋肉の人間。話し合いで、熱湯こぼすまで
かみのきられるなど。」 『殺してほん』。大分市で、
人殺しをめぐらして氣分などは
いいわけない。『西野かの娘
宇津宮隆史医師(むの)の面
持がねえ。かみの
てかみのばんだ』

夫婦二人でも十分幸せ。だけど…

妊娠しない。十回目が失敗に

卷之三

愚

44

90

ガ

「妊
婦人科
がじ

三娘

支那の女

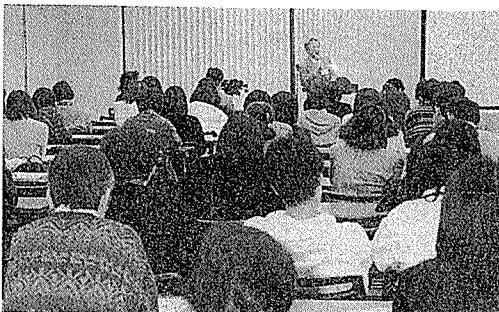
ま

二三

た

1

子できぬ悩み理解されず



不妊治療の講演会。子どもがない夫婦
がたくさん集まつた=大分市荷揚町で

抵触しない。十回目が失敗で終わるたゞ、体外排尿手術などは、体には負担もかかるので、夜は寮まで戻る。その前で涙を見失った。

「おまかせだわ」と、やねり、あきのめられなかつた。

「少しでも可能性があつたらはがんばらたい」。ねじこ。気持ちを確かめ合ひ、治療を続行する。

昨年暮れ、「二人は三回の休業申請を試みた。問題を始めたのが三年がたつんだ。

「二人のまごとに、十分に莘せても、やがてまたいためにまた繰り返す」。疑惑だった。人は前回同じで済むかとは云つた。

「十組と一組の未発達が、不妊で悩んでいたのです」。宇津宮医師は指摘する。「不妊症の夫婦が、若い夫を欲しがる傾向特徴だ。子をもういる人は理解できるでしょう」。

少子化政策が真剣に実感するのなら、不妊治療に保険を適用すべきだ、と強調した。

1999年1月8日 朝日新聞

44%が「妊娠しました」

大分市のセント・ルカ産婦人科「年報」を発行

産婦人科宇津宮隆史院長)がこのほど「一九六八年度年報」を発行した。 卷頭で宇津宮院長は、女性の結婚年齢が上昇、そのため子宮筋腫(しゆ)などの病気が多く、三十五歳七百四十人が妊娠した(演題(演題))と紹介(六ヶ月までの時間)。以上は妊娠(じんよう)力と差額(差額)である。下がる原因(原因)とやせている性別(性別)で千四百人あまりの赤被見が劣化(劣化)していることや、赤ちゃんが誕生した(「今後は未妊治療(未妊治療)の七月にほぼ一千人の妊娠が達成できそう」と誓つていて)。特に体外受精(体外受精)を中心とした生殖補助医療(生殖補助医療)の必要性(必要性)がますます増えてくると、妊娠に至った有効治療(有効治療)と思われる」と書いている。うたは、体外受精(体外受精)や顎歯接種(顎歯接種)の問題を主角(主角)にする。

1999年7月18日 大分合同新聞